

文化財を「翻訳」する(二)

——飛鳥資料館第二展示室パネルテキスト訳文のブラッシュアップ——

吳 修喆・奈良文化財研究所

Tips on Translating Cultural Heritage Information: A Case Study

Wu Xiuzhe・Nara National Research Institute for Cultural Properties

翻訳／Translation 山田寺／Yamadadera

はじめに

2021年、奈良県桜井市に位置する山田寺跡は史跡指定100周年を迎えました。奈文研では、1976年から山田寺跡に対し計11次の発掘調査を行い、出土した建築部材を保存処理後、組み直し再現した山田寺東面回廊の一部を中心に、国の重要文化財に指定された山田寺の遺物を飛鳥資料館第二展示室にて常設展示中です。現在、山田寺跡は「飛鳥・藤原の宮跡とその関連資産群」の構成資産として、飛鳥・藤原地区の遺跡とともに世界遺産登録を目指しています。これを機に、多言語化整備の一環として、飛鳥資料館第二展示室のパネルテキストを英・中・韓に新訳して、公式サイトに公開する予定です。

前回は、外注翻訳を利用する時の注意点と訳文のブラッシュアップ方法を紹介しました。今回はチェックポイントに照らし合わせて、実際の訳文を使って説明します。

チェックポイント＆ブラッシュアップ

凡例	
下線部	主な修正箇所の原文
紫色	言い回し修正
青色	読みやすくするために追加した語句
ピンク	専門用語（対訳集参照）
赤色	誤訳修正
緑色	俗っぽい表現修正
橙色	固有名詞（既存訳参照）

ネイティブから見て読みやすく自然な言い回しになっているか

〈原文〉

7世紀、日本に仏教が根をおろします。それまで人々がみたこともない異国風の大建築が、飛鳥地方を中心に次々と作られていきました。仏教寺院は、わが国に流れこんだあたらしい文化を代表するものでした。

〈外注訳文〉

7世纪时，佛教在日本扎根。以飞鸟地区为中心，许多此前人们从未见过的异域风情的大型建筑物在这个时期建成。佛教寺院是传入日本的新文化的代表。

〈修正案〉

佛教于公元7世纪传入日本后，人们陆续在飞鸟一带建造了许多日本人此前从未见过的、充满异域风情的大型建筑。在当时传入日本的新文化中，最具代表性的便是这些佛教寺院。

- ・外注訳文は典型的な直訳で、語順が原文と完全に一致しています。日本語の「～を中心には」「～をはじめに」という慣用表現は、中国語では「以……为中心」「以……为首」と訳すのが基本ですが、文章によっては翻訳調が強すぎるように感じられます。ここでは「飞鸟一帯」と表現を変えました。
- ・文章の全体的な流れをよくするために、時制を表す単語を補いました。

主語の省略などにより、意味が不明瞭な点はないか

〈原文〉

これらの大寺院の建築のほとんどは、時代の変遷の中で地上から姿を消し、永遠に失われた、とするのがこれまでの常識でした。1982年、山田寺の発掘調査が、この常識をくつがえします。東回廊が倒壊した状況のまま、土中からみつかったのです。その後の数次にわたる調査の結果もあわせると、東回廊の建築部材千点以上が確認できました。

〈外注訳文〉

此前人们认为这些大寺院的建筑，几乎都在时代的变迁中从世人眼中消失了，永远不见踪迹。1982年，山田寺的发掘调查推翻了这个常识。东回廊以倒塌的状态被人们从土中发现。加上之后的几次调查结果，发掘出一千多件东回廊的建筑材料构件。

〈修正案〉

在大众原本的认知中，这些大型寺院建筑几乎都已经随着时代变迁从地面上消失，不复存在了。然而，1982年，对山田寺遗址的考古发掘推翻了这个常识。因为考古人员惊讶地发现，山田寺的东面回廊竟保持着倒塌时的样子，原封不动地沉睡在泥土之中。经过后续的几次发掘，目前已经找到一千多件东回廊的建筑构件。

- ・「発掘調査」は対訳集を参照して「考古发掘」に修正しました。
- ・原文は、モノを主語とした文によって構成されているので、ヒトは出てきません。中国語では自動詞・他動詞の区別がなく、常識の持ち主や発掘調査を行う主体を入れないと、不自然に感じられるため、主語となるヒトを補いました。

現代中国語で使わなくなった単語や、見慣れない表現はないか

〈原文〉

埋没していた東回廊は、木造寺院建築の現存する最古の実例であり、日本の建築をはじめとする文化の歴史を考える上でかけがえのない資料となるものです。はるかな時をへだてて残された、もろく、壊れやすい部材の保存のための科学的な処置には14年の歳月がかけられました。この展示室では、最も残存状態のよかつた回廊の三間分の部材を使用して、当時の構造と規模がわかるかたちで組立て、山田寺の東回廊を再現しています。

〈外注訳文〉

被掩埋的东回廊是木造寺院建筑现存最古老的实例，是研究以日本建筑为首的
文化历史时不可替代的的资料。为了保存在遥远的时间长河里留下的脆弱、易碎的建筑材料构件，考古人员花了14年的时间对其进行科学的处理。在这个展示室里，采用保留状态最好的三隔间回廊的材料，以能展示出当时的构造和规模的形式组装，再现了山田寺的东回廊。

〈修正案〉

被掩埋的这段回廊，是木造寺院建筑中现存最古老的实例，也是研究日本建筑等文化的历史时无可取代的的珍贵资料。为了保存这些从遥远时间长河中“打捞”上来的脆弱、易碎的建筑构件，考古人员花费了整整14年时间对其进行科学处理。本展厅采用保存状态最好的三开间（两根柱子之间的距离称为一开间）

回廊构件，成功地重现了山田寺东回廊倒塌前的结构与规模。

- 前述したように、「～をはじめとする」を「以……为首」に直訳すると翻訳調になり、ここでは「日本建筑等」にしました。
- 外注訳文は「时间长河（時の河）」という比喩表現を使っていますが、これに合わせて、「发掘」という動作を「打捞（引き上げる）」にたとえました。
- 「間」は古代建築用語ですので、対訳集を参照し、補足説明も入れました。

情報に間違いはないか

〈原文〉

山田寺の建立については、聖徳太子の伝記『上宮聖徳法王帝説』の用紙の裏に6行にわたって記した『裏書』にくわしい。その第1行目には「十三年辛丑年春三月十五日、淨土寺を始む」とある。淨土寺は山田寺の別名で、^{じょ}_{めい}明天皇13年（641）3月15日に山田寺の建設がはじまったのである。

〈外注訳文〉

关于山田寺的建立，在圣德太子传记《上官圣德法王帝说》一书的背面，其长达6行的『里书』中有详细记载。第一行写着“十三年辛丑年春三月十五日净土寺始建”。净土寺是山田寺的别称，意思是舒明天皇13年（641）3月15日开始建设山田寺。

〈修正案〉

在圣德太子传记《上官圣德法王帝说》的背面可找到6行关于创建山田寺的记载。其中第一行写到，“十三年辛丑年春三月十五日净土寺始建”。净土寺是山田寺的别称，由此可见，山田寺始建于舒明天皇13年（641）3月15日。

- 「裏書」とは古文書学の用語で、紙背に記された別の文章のことです。外注翻訳では、明らかにそれを書名だと誤解しています。

口語的な表現や、俗っぽい表現はないか

〈原文〉

大化5年（649）、願主石川麻呂が中大兄皇子に対する謀反の疑いにより、^{むほん}完成間もない金堂の前で自害。寺の造営は中断する。天武朝にはいって、伽藍の全体が完成することになるが、これには石川麻呂の孫に当たる、後の持統天皇の力が大きかったのだろう。

〈外注訳文〉

大化5年（649年），**山田寺之主石川麻吕因对中大兄皇子造反的嫌疑，在即将完工的金殿前自杀。**寺院的修建因此中止。进入天武朝后，在石川麻吕的孙辈，后来的持统天皇的主导下，寺庙的整体建筑完成。

〈修正案〉

大化5年（649年），**发愿建造山田寺的石川麻吕遭人密告，被疑对中大兄皇子（后来的天智天皇）怀有谋反之心。**石川麻吕深觉无力自证清白，最终选择在完工不久的金堂前自杀。寺院的修建因此中止。进入天武朝后，在石川麻吕的孙辈——后来的持统天皇主导下，寺院整体建筑得以完成。

- ・「造反」は民衆によるもので、体制に逆らう行動を指します。また、一般的に「謀反」より俗っぽいニュアンスがありますので、ここでは「謀反」とします。
- ・補足的な情報を入れつつ、日本古代史における事件の流れをわかりやすく解説してみました。

施設名など、既存のオフィシャルな訳語に統一されているか

〈原文〉

山田寺の仏たち

現在、興福寺の宝物館にある仏頭と東金堂の日光・月光の両菩薩とは、もともと**山田寺講堂**に安置されていた薬師三尊像である。焼失した興福寺の東金堂を再建し、そこに安置するため鎌倉時代に山田寺から移したもので、その後、中尊の薬師如来像は、破損してその仏頭だけが残ったのである。

このほか、山田寺旧蔵とされる阿弥陀三尊像が、法隆寺献納宝物144号として、東京国立博物館に所蔵されている。台座の腰板背面に「山田殿像」の銘を刻んでおり、像の様式からすると、山田寺が完成した天武朝末年に寺に納めたのだろう。

〈外注訳文〉

山田寺供奉的**佛祖**

现在兴福寺宝物馆中展出的佛头和**东金殿**的日光、月光两座菩萨，原本是安置在**山田寺讲经堂**中的药师三尊像。镰仓时期为了重建被烧毁的兴福寺的**东金殿**，这三尊佛像从山田寺被移置过来，之后中间一尊的药师如来像受损，只

留下了佛头。

此外，被认为是山田寺旧藏的阿弥陀佛三尊像，作为法隆寺献纳宝物 144 号被收藏在东京国立博物馆。在其底座的腰板背面刻着“山田殿像”的铭字，从佛像的形制分析，可能是在山田寺建设完成的天武朝末年时收入寺庙中的。

〈修正案〉

山田寺的佛像

现在兴福寺宝物馆中展出的佛头和兴福寺东金堂的日光、月光两座菩萨，其实原本是安置在山田寺讲堂中的药师三尊像。源平合战时期，为了重建被烧毁的兴福寺东金堂，兴福寺僧侣将这三尊佛像强行移至东金堂充当主佛。之后几经灾害，中尊药师如来像破损严重，目前只留有佛头部分。

此外，目前收藏于东京国立博物馆，作为法隆寺 144 号献纳宝物的阿弥陀佛三尊像也被认为是山田寺的旧藏。因为在其底座腰板背面刻有“山田殿像”铭文，从佛像的形制可以推测，该像可能是在天武朝末年，即山田寺建成时供奉于寺内的。

- ・「佛祖」は宗派の開祖、特に釈迦を指すやや俗っぽい表現です。ここでは文脈的に仏像のことを指しているので、「佛像」にしました。
- ・「東金堂」「山田寺講堂」は建物名で固有名詞ですので、既存訳に統一しました。
- ・原文では、山田寺の丈六薬師三尊が鎌倉時代に興福寺東金堂衆によって強奪された経緯がほぼ省略されているので、『山田寺発掘報告（本文編）』（奈良文化財研究所 2002）第 16 頁の記述を参照して情報を補いました。

専門用語などは対訳集を参照したか

〈原文〉

軒丸瓦、垂木先瓦は八弁の单弁に子葉をもつ蓮華文がつく。金堂・塔・回廊・講堂、それぞれに同モチーフで、大きさの違うものがつくられ、重弧文軒平瓦と組みあう。

東回廊では、倒壊時に屋根にのっていたすべての瓦が、そのまま地面にずり落ちた状態で見つかっている。平瓦がどれくらいの重なりをもって葺かれていたか、あるいは、建物が使われた 350 年のあいだに、どの場所でそれくらいの補修がおこなわれたかなど、古代の瓦の使い方を示す非常に珍しい実例となっている。

〈外注訳文〉

軒丸瓦、**垂木先瓦**带有八瓣莲花单瓣有子叶的莲花图纹。**金殿**、佛塔、回廊、**讲经堂**，分别以同一主题，用大小不同的瓦片，与重弧文**轩平瓦**组合在一起。

东回廊倒塌时，屋顶上的所有瓦都直接掉落在地面上。**平瓦**是重叠多少层修葺而成的，或者在作为建筑物被使用的350年间，在什么位置进行了怎么的修补等，这些都是呈现古代瓦片使用方法的非常珍贵的实例。

〈修正案〉

山田寺的**瓦当**和**椽头瓦**均带有单瓣带子叶的八瓣莲花纹。这些主题图案相同、大小不同的瓦被铺设在**金堂**、塔、回廊、**讲堂**屋顶，与重弧纹**滴水**组合使用。

东回廊倒塌时，屋顶上所有瓦件都直接掉落到地面，原封不动地埋藏于土中。通过这段东回廊，我们可以直接得知当时**板瓦**铺了多少层，以及这段回廊实际被使用的350年间，在什么位置接受过怎样的修补等。对于研究古代瓦件的使用方法来说，它是非常珍贵的实例。

- ・瓦の名称は専門用語ですので、対訳集を参照して修正しています。

おわりに

以上、前回「文化財を『翻訳』する—より良い訳文を提供するために—」に掲載された訳文校閲における基本的なチェックポイントをブラッシュアップ作業の実例で説明しました。主な修正箇所のほかに、文章表現を適宜修正しています。最後に、訳語を統一するのに重要な「□ 専門用語などは対訳集を参照したか」を追加しています。ただ、対訳集は必要に応じて隨時修正・更新されますので、最新のものであるかどうかを確認してから作業しましょう。